

口腔保健工学専攻の実習室。学生一人ひとりに作業台があり、器具などが整った環境の中で日々技術の研さんを積む。



もともと美術や工作は好きだったという小山さんが造形美術概論実習で描いた自画像(左が写真で右がスケッチ)。

医科歯科大 No.019 File

自ら問い、
自ら導く学生たち

小山菜水

(こやま・なみ)さん

歯学部

口腔保健学科

口腔保健工学専攻2年

受験勉強のストレスから歯ぎしりをするようになり、歯科医院でマウスピースを作るときに初めて歯科技工士の存在を知ったという小山さん。

「直接患者さんの口腔内を触ったりしないのにピッタリの技工物を作れることにすごく驚きました。それまでは漠然と医療従事者を目指していましたが、ぜひこの分野を学びたいと思いました」

CAD実習や病院実習など 3年次から始まる 実習の準備に注力

歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻2年生の小山菜水さんは、歯科技工士を目指して東京医科歯科大学に入学した。

「1年次の授業で印象深かったのは、デッサンや彫刻の実習を行う造形美術概論実習です。当時はそれが何の役に立つのかわかりませんでした。2年次になって専門科目を学ぶと、歯の造形や色相を理解する上で重要なことだと気づきました」

口腔保健工学専攻は1学年が12人という少人数専攻だが、それだけに同級生とのつながりが深く、先生との距離もとても近い。

「2年次後期のグローバル口腔保健工学実習という科目では、学年の全員で台北医学大学を訪問してデジタル技工の現場を見せてもらい、英語でプレゼンしました。海外に行くことは初めてでしたが、充実した1週間を過ごすことができました」

週末はフットサルサークルで、仲間と共に汗を流しているという。

「サークルには、初心者も多く色々なポジションを任せられます。普段は少人数の限られた仲間と過ごしているのですが、他科の学生との交流も楽しみの一つです。サークルの休憩時間には看護学専攻の学生が私の腕で心拍計測の練習をするなど、学んでいる内容をお互いに知ることもできます」

2年次の専門科目は概論中心ですが、今後3年次に進むと実習の割合が増えてくる。小山さんは期待に胸を膨らませて準備をしている。

「歯科技工士は、直接患者さんに会うことはないですが、その人が一生使う義歯や詰め物を作る素晴らしい仕事です。そのためには技術だけでなく想像力も大切だと思います。デジタルの技術も必須なので、本格的な実習を心待ちにしています」

歯科技工士になるための第一歩を踏み出した小山さんは、その道を仲間と共に歩いていく。

